Iターン留学
にいがたイナカレッジ

農村で多業的な働き方は広がるのか？
どんなサポートができるのか？

ーイナカレッジ、アグリパスの取り組みからー

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

1．イナカレッジの紹介

2．しごとづくりの実態について

3．ライフスタイル型就農プログラム
　　アグリパスの取り組みから

1．にいがたイナカレッジの紹介

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

イナカレッジプログラム

地方に関わるきっかけづくり

イナカレッジラボ、はたらくくらすラボ

目的：都市部在住の地方に興味がある若者との関係性づくり。イナカレッジに参加してもらうきっかけづくり。

内容：地方で何かやりたいと考えている若者に対して、一人ひとりの要望の応じたプログラムづくり・提供や、これからの生き方に悩む若者の人生相談など。

お米レター【新潟市、村上市、出雲崎町、関川村】

目的：お米と手紙からはじまる地域と学生の関係性づくり

内容：県内一人暮らし学生を対象に、農村地域から米と手紙を発送し、受け取った学生から農家にお礼の手紙と料理の写真を郵送。その後お礼・お手伝いツアーを実施。

日帰り・数日型プログラム

おてつだいPLUS【新潟市、村上市、出雲崎町】

目的：県内に住む若者と地域・農家の関係性づくり。

内容：農作業の繁忙期、地域の共同作業やイベント等の単発的なお手伝いに対して、お金ではないお駄賃を提供。

通い型プログラム

ツアー型地域づくりプログラム【魚沼市、村上市、新潟市】

目的：地域に興味を持つ人を増やす。地域に共感して一緒に汗を流してくれる担い手を育成する。

内容：都市部に暮らす人たちを対象に、地域の課題解決や地域のプロジェクトに関わり、メンバーの一員となって一緒に地域づくりを実践するプログラム。

滞在型プログラム

地域実践型インターン【柏崎市・出雲崎町・関川村・村上市】

目的：学生の学び・成長×地域の課題解決等を図りつつ、地域に関わる担い手を育成

内容：【期間】１か月／【プログラム】単なる労働力の提供ではなく、地域に応じたテーマを設定して活動する実践型農村インターンシップ。
【実績】（H28）9地域22名（H29）5地域15名
（H30）8地域24名（R1）15名

地域型１年インターン（H24～29）【中越地域】

目的：中越の農山村の担い手確保・育成

内容：【期間】1年間／【生活費補助】5万円/月／【主な対象】社会人（学生）／【プログラム】地域の仕事や暮らしを学び、自分にあったライフスタイルを見つける・創る・実現する。

長期滞在型プログラム

アグリパス【小千谷市、柏崎市】

目的：新規就農・農業に関りを持つ担い手の育成。繁忙期の農業者の人手不足解消。

内容：【期間】1年間／【生活費補助】8.5万円/月／【プログラム】農家のお手伝いと集落の暮らしからはじまるライフスタイル型就農プログラム。

【目指すもの】

地域に共感して、一緒に汗を流して一緒に活動する“多様な担い手”を増やしたい。

―過疎化が進んでもその地域に関わる人や応援してくれる人（共感者）がいて、それによって地域の人たちが「まだまだ頑張れる」という前向きな気持ちで暮らし続けられる地域・人を残していきたい。

―都市に暮らす若者等にとって、農村地域の人や暮らしに触れることで様々な価値観に出会い、自分に合った“活き方”を見つけるきっかけを作りたい。

自治体サポート事業

移住プロモーション・ライフスタイルカフェ
【新潟県、新発田市、柏崎市】

目的：新潟に興味を持つ人を増やす。個人情報の取得。

内容：東京で“地方”“新潟”を喚起するイベントや移住相談会を開催。（H30テーマ『ローカルとアート』『起業×新潟』『地域旅×新潟』『ウィンタースポーツ×新潟』『リモートワーク×新潟』『新潟×食と農』『ローカル家計簿』）

地域おこし協力隊受入体制づくり・募集支援・コーディネート【出雲崎町、新発田市、柏崎市、見附市、胎内市】

目的：地域にとっても協力隊にとってもwinwinな地域おこし協力隊制度の運用。

内容：受入地域に対する協力隊の正しい理解、プログラムづくり、募集活動、導入後のフォローアップなど、市町村単位の地域おこし協力隊に関わる総合的サポート。

移住者受入研修【県内18市町村】

目的：県内の移住者受入の機運づくり・体制づくり。

内容：地域住民等を対象に、移住者を受け入れるための具体的なノウハウなどを学ぶ研修会を実施。ワークショップを通じて、移住者受入を活発化していくための具体的なアイディア出しを行う。

地域サポート

中山間地域等直接支払い事務局【小千谷市】

目的：中山間地域等直接支払い制度の円滑な運用とこれをきっかけに中山間地域の農業の課題解決に向けた支援。

内容：広域協定事務局としての事務作業。試行加算事業等を活用した担い手育成など。

地域の話し合い支援・ビジョン策定
【上越市・三条市・新発田市・妙高市】

目的：地域内での話し合いや合意形成・計画策定。

内容：地域住民へのヒアリングやワークショップ等を通じて、課題の整理、地域の目指す方向性、それらにもとづく具体的な活動展開などの話し合いや計画策定を支援。

道の駅・農産物直売所開業支援業務
【群馬県片品村・長野県栄村ほか】

内容：道の駅や農産物直売所の開業に向けた各種調査、アンケート、国等の公的資金活用の申請、基本構想・基本計画策定、開業に向けた農業者等の機運づくり・出荷者組織立ち上げ、店舗の運営等をサポート。

市民協働推進計画策定・条例【新発田市・長岡市】

目的：市民協働推進に向けた計画策定に関わる総合サポート。

内容：市民アンケート、活動団体ヒアリング、委員会の運営、計画素案づくりなど。

復興地域づくり【糸魚川市】

目的：糸魚川大火（2016.12発生）の復興地域づくりの推進。

内容：大火跡地の利活用と市民協働の仕組みづくり。復興地域づくりに向けたワークショップや具体的な地域活動・団体の立ち上げおよび活動の支援など。

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

日帰り・数日型プログラム（おてつだいPlus）

ル・レクチェの収穫作業

空き家の掃除

赤カブの収穫作業

蔵の掃除

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

通い型プログラム

にいがたknow村プログラム

お母さんの知恵袋プロジェクト

トビラ

トビラ

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

滞在型プログラム（１か月地域インターン）

鮎谷集落インターン（2019関川村）

中継集落インターン（2019村上市）

矢田集落インターン（2019柏崎市）

川井地域インターン（2019小千谷市）

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

長期滞在型プログラム（半年～１年）

アグリパス（2020小千谷市）

アグリパス（2020小千谷市）

長期地域インターン（2012～2017）

企業インターン（2019長岡市）

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

県・市町村等の委託業務

地域おこし協力隊研修

関係人口プログラム（首都圏イベント）

新潟県・市町村移住セミナー

道の駅開業支援、マーケティング等

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

インターンシップ参加者・受入地域

（2012年度~2019年度）

長期（１年）地域インターン　延べ35名（主に社会人）

短期（１か月）地域インターン 延べ113名（主に大学生）

長期（半年）企業インターン　３名（学生）

受　入　延べ55地域・団体

定住した人　家族まで入れれば40人くらい

その後も地域に関わり続ける人　多数

未来のチカラ in 柏崎・出雲崎・刈羽

新潟日報

探る ひと集うまち 地域の宝磨く <1>

柏崎・高柳町荻ノ島

移住

共感者増やす交流重視

過疎進む農村 若者定着

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

1か月夏休みインターン
（大学4年次）
↓
卒業後（2017年）
1年間のインターンに参加
↓
そのまま定住
・米づくり
・新聞配達
・かやぶき屋根の補修
・荻ノ島ふるさと村組合事務局長

1．にいがたイナカレッジの紹介　まとめ

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

【目指すもの】

地域に共感して、一緒に汗を流して一緒に活動する、地域の“多様な担い手”を増やしたい。

【地域にとって】
過疎化が進んでもその地域に関わる人や応援する人（共感者）がいて、それによって地域の人たちが「この地域は価値あるものなんだ」「まだまだ頑張れる」という前向きな気持ちで活動に取り組む地域・人を残していきたい。

【地域に関わる若者等にとって】
農村地域の人や暮らしに触れることで、様々な価値観に出会い、自分に合った“活き方”を見つけるきっかけを提供したい。

場所 × 場面

（地域に入っていくきっかけづくり）　（関係性を育むきっかけづくり）

○お手伝い型プログラム
（半日～数日型）
地域の「ちょっと人手が欲しいな」という時にお手伝いに行くという分かりやすさ、受け入れ易さ

○地域づくり型プログラム
（週末通い型～１か月間）
これから地域としてこんな取組をやっていきたいなに対して一緒に汗をかいて実行。（課題解決なんていう大それたものではない）

○学び（研修）型プログラム
（１年間）
地域に“暮らしてみたい”若者を対象に、地域の人たちが先生となり、農村で暮らすための知恵や業を学ぶ研修プログラム。

直接的効果

「収穫作業を終えることができた」
「地域をPRする冊子ができた」
など、プログラムを通してできる作業や成果物

副次的効果

「地域の雰囲気が明るくなった」
「地域の若者が活動に参加してくれるようになった」
など、よそ者が地域に入ったことでの様々な変化

関係性＝地域への共感

≪人の魅力≫
≪暮らしの魅力≫
≪コミュニティの魅力≫

【関係を育むポイント】
○一緒に過ごした時間×一緒にかいた汗の量（共通体験）
○顔と名前が一致する規模感
○１対大勢の受入体制（過疎なのに人まみれ）
○関係性の深まりのプロセスを描く

存在承認の関係性

「○○さんに会いに行きたい」
「○○ちゃんが来てくれて嬉しい」

コーディネーターの役割

◇プログラムの成果を導くためのコーディネート
◇関係性を育むためのコーディネート

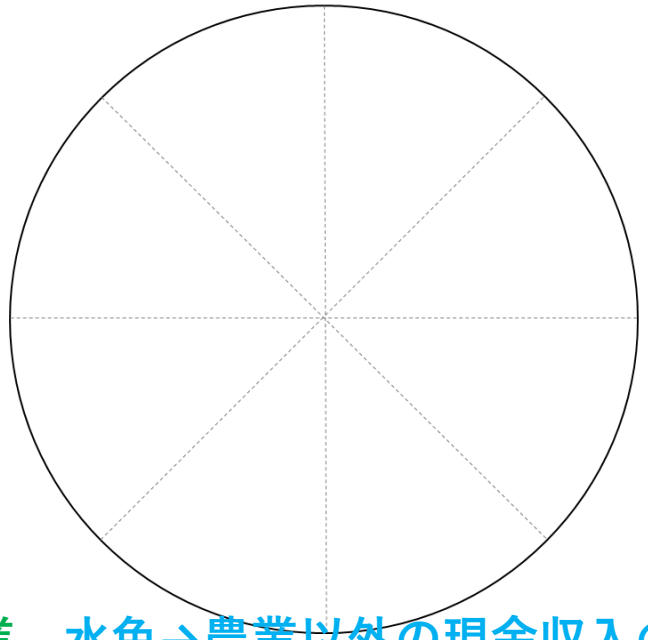
Iターン留学 にいがたイナカレッジ

2017年の調査

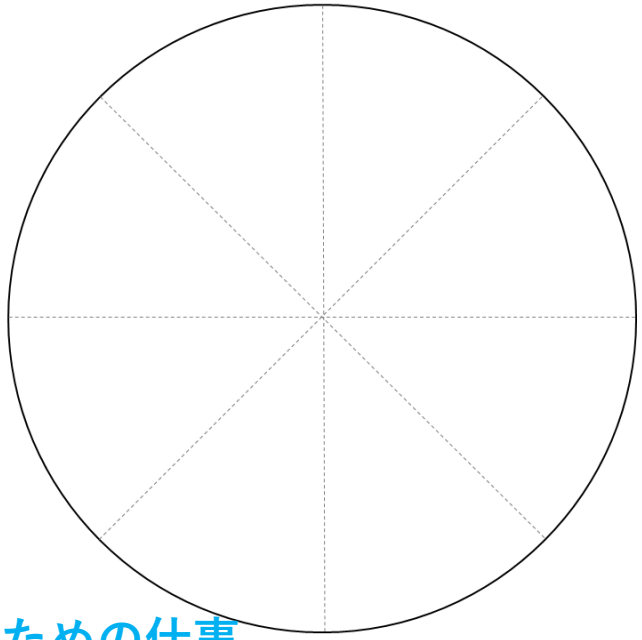
あなたの活動について大体のつかみで教えてください。

- 農繁期など特別な月を除く、1ヶ月イメージしたときに、ぐらいでお答えください。
- 活動＝収入のある仕事、収入にはならないけど好きでやっていること、ムラの活動、自分の農作業など

あなたの活動を“時間”で割ると
（100％全ての活動時間）



あなたの活動を“収入”で割ると
（100％全収入）



緑→農業、**水色→農業以外の現金収入のための仕事**、
赤→自分のやりたい事・将来的に収入の柱にしたいことなど

時間の使い方
何を大事にするのか？自分の価値観

×

生計の立て方
どう稼ぐのか？

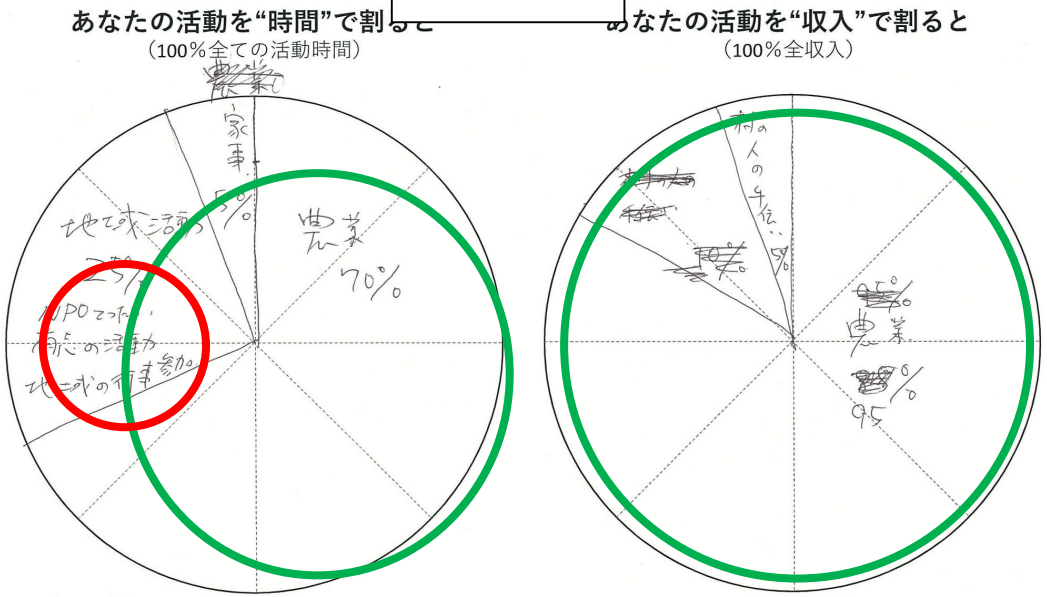
×

地域・社会との関係の仕方
どういう関係を築くのか？どう貢献するのか？

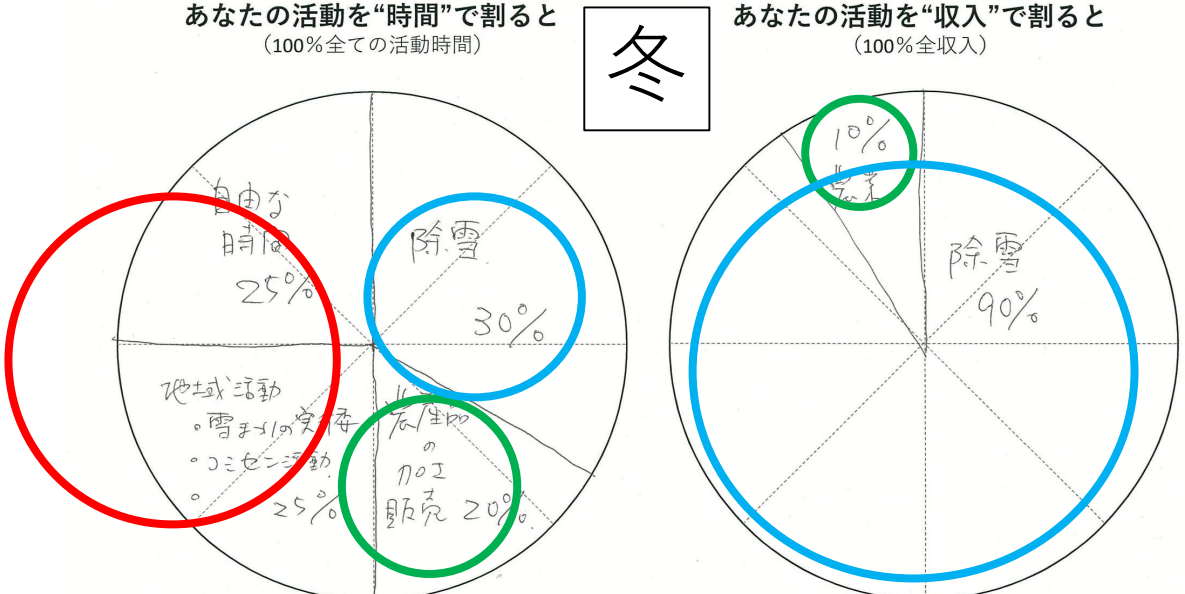
Ｙさん　専業農家　妻・子　一軒家

農業＋冬季除雪

春～秋



冬



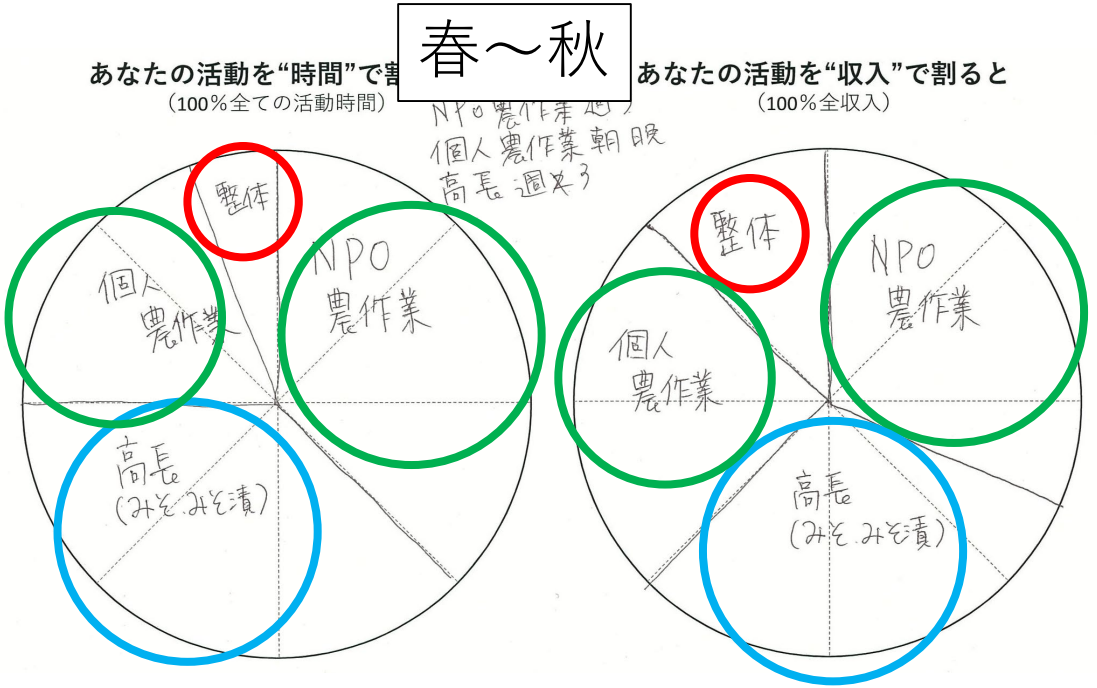
◆時間の使い方
- 専業での農業（個人事業）
  地域活動にも時間多め
- 冬季間は自由時間、地域活動に割く時間は半分

◆生計の立て方
- 春～秋→農業
- 冬→除雪

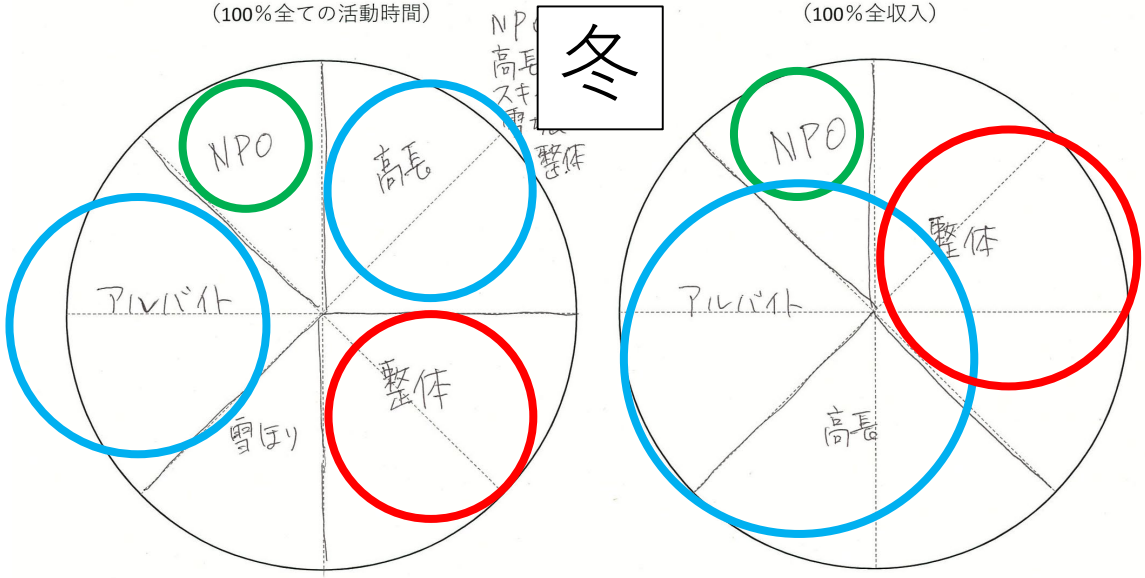
◆地域の関係
- 近隣からＩターン者
- 地域農業の重要な担い手として期待されている。
- 地域団体の中核メンバー
- 移住者ネットワークの核

Mさん（男）整体師・農家　シェアハウス3人暮らし

春～秋



冬



X（整体）＋農業

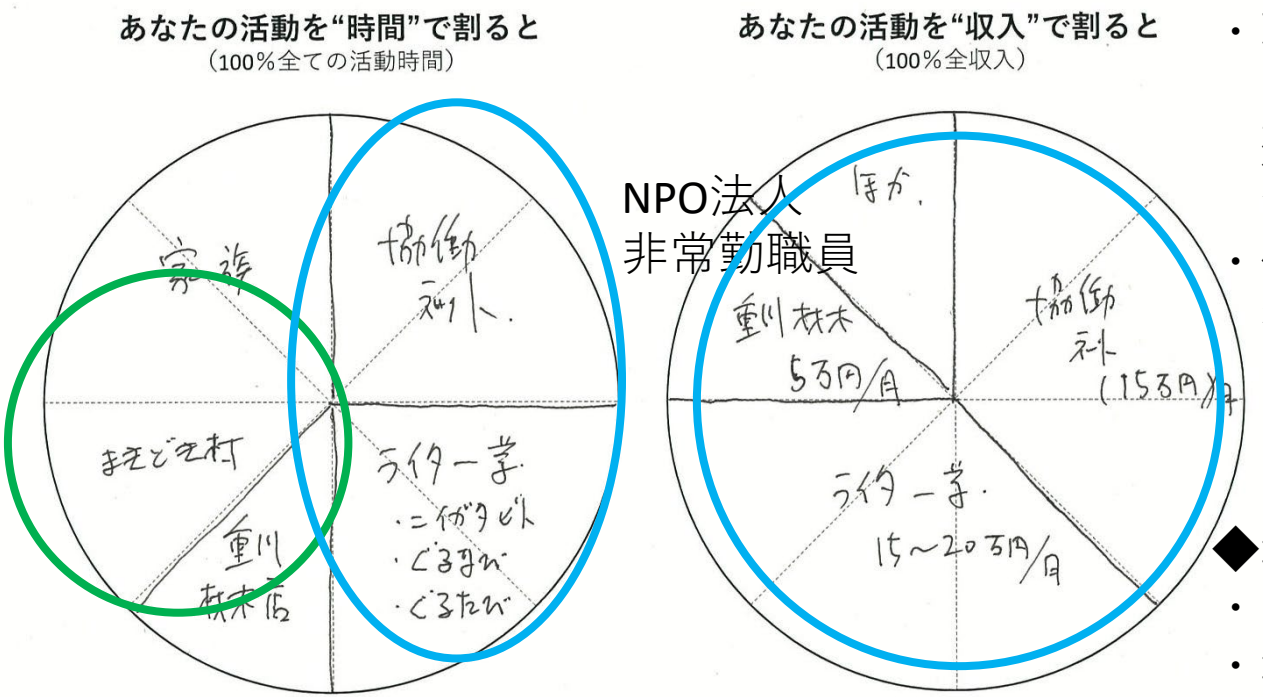
◆時間の使い方
- 農業（法人、個人）＋バイト＋個人事業（整体）
- バイト減らして個人事業を増加できればという希望
- 冬季間は農業が減る

◆生計の立て方
- 上記とほぼ同じ

◆地域の関係
- Ｉターン者
- 田んぼの重要な担い手として期待されて、それに自身も答えようとしている。
- 法人の農業以外の事業にも積極的に関与（ツーリズム事業等）

Kさん（男）ライター　妻・子　1軒家賃貸

X（ライター、地域づくりコーディネーター業）＋農業



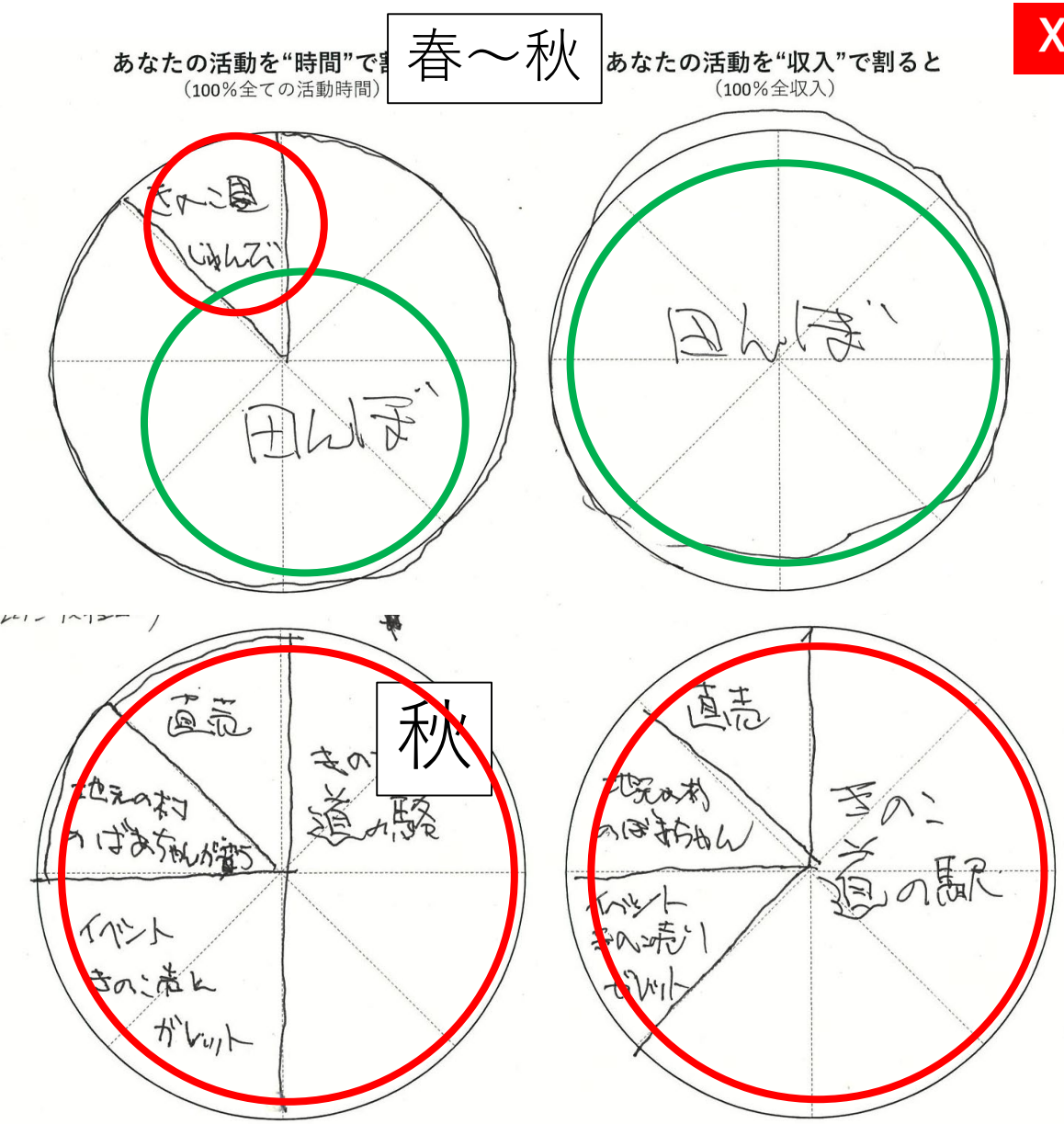
NPO法人
非常勤職員

◆時間の使い方
◆生計の立て方
・現金収入のある仕事で時間の半分ほど使い、残り半分農業や地域活動に使う。
・仕事はフリーランスで行っているため時間それらの時間を作る事が可能になっている。

◆地域の関係
・Ｉターン者（大学から新潟）
・地域に以前から活動（茅葺の庄屋宅の保全）の新しい担い手。
・地域交流の核となる役割を担っている。

Hさん（男）きのこ園経営　1人暮らし　1軒家賃貸

X（山菜・きのこ・狩猟）＋農業

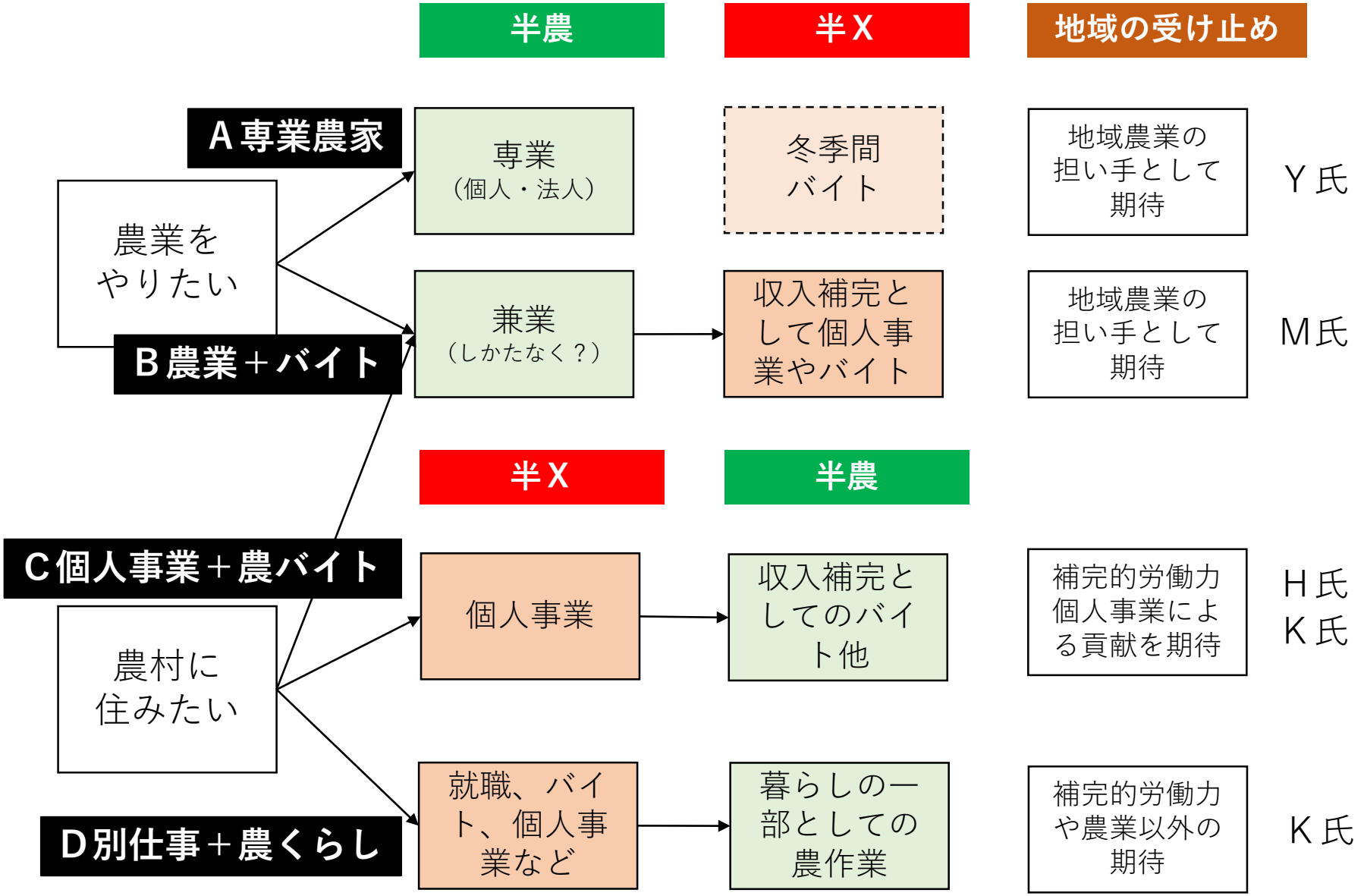


◆時間の使い方
◆生計の立て方
・山菜採取販売、きのこ園運営、冬の狩猟に時間を使いたい。
・田んぼは法人でのアルバイト収入を得ることが目的

◆地域の関係
・Ｉターン者
・かつて地域で運営していたきのこ園を継業。
・基本的には一匹狼気質。

2．「しごと」づくりについて　半農半Ｘ的しごとの作り方パターン

Ｉターン留学 にいがたイナカレッジ



2．「しごと」づくりについて

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

A専業農家　**やることがはっきりしている（そして地域に一番求められている）**

・技術や資源を揃えるために顔を売っていく必要がある。
・農業次世代投資資金を活用したいが、地域に適当な研修先が意外とない。

B農業＋バイト　**一番過酷？農業も中途半端、Xも中途半端になりがち。**

・農業に軸を置きながら（まだ新米で）＋Xを作ることは可能か？？？
・半Xのバイトを農業バイトでという手か。

C個人事業＋農バイト　**いわゆる農村起業的な生き方。まぁレアケース。**

・経営資源をもたないIターン者等にとっては継業が現実的ではある。

D別仕事＋農くらし　**一番気楽な農との関わり、集落の担い手として重要**

・Iターン者は仕事どうするかはある（こだわりがあると難しいかも）
地域づくり的な仕事にこだわりと詰みがち。

多様な担い手づくりのためにどんなプログラムが必要か？

・農業やりたい、農村住みたい＝「専業農家なりたい」ではない

→農業農村を学びながら、選択肢を選べるようにしたい。

そのためのプログラムがないようだ（ホントかどうかは不明）

・すべてのベースになるのは「農村で暮らしたい」

さらに言えば「この地域に住みたい」という思い。それがなければ、Ｂ～Ｄの選択肢はない。

→「集落で暮らす」「地域の人たちとの関係作り」ということを最重要事項としたい。

・Ｘは地域に来て何ができるのかを模索するもの。

個人事業でも、バイトでも地域にどんなネタが落ちているのか、その出会いがすべて。

→農業以外のことができる自由な時間を作りたい。

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

中山間地機等直接支払制度・棚田地域振興加算金を活用

アグリパス
ライフスタイル型就農プログラム

agripass.jp

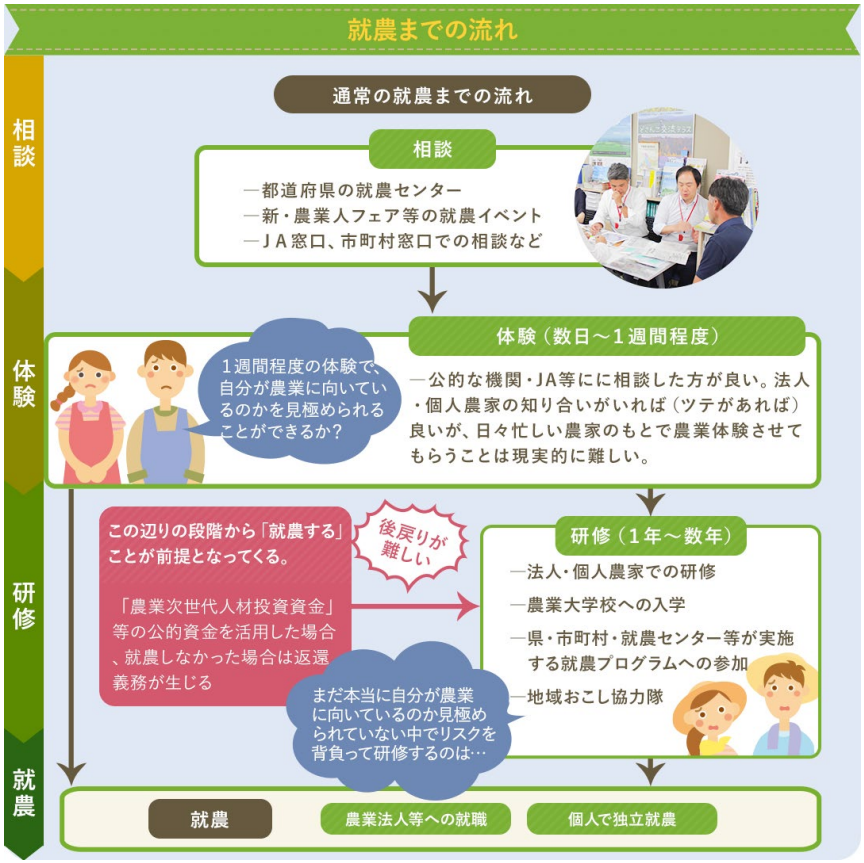
【対象】

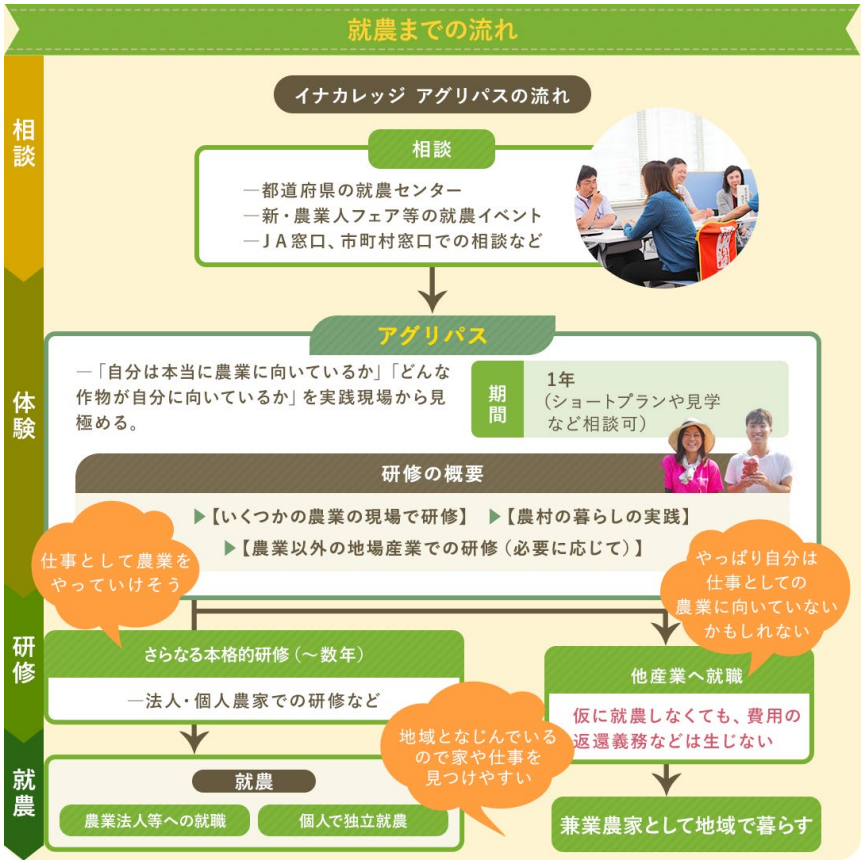
新規就農を考えている、就農に興味はあるが、そもそも自分が農業に向いているのかわからない、本当にやれるのか不安を抱える人（**「農業次世代人材投資資金」を受ける前段階の人材**）など（20～30歳代）

3．ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

プログラム終了後、様々な選択肢を取れることを打ち出す





3．ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

“自営農業の実践”と“農家のお手伝い”からはじめるライフスタイル型就農プログラム

この研修プログラムは、農に関わる仕事と暮らしを学び、自分にあった農業との関わり方、ライフスタイルの探求を応援します。

集落での暮らしを基本に、自ら田畑を持ち「自営農家」として野菜づくり、米づくりに取り組みます。農家としての技術は、集落内外の米農家や野菜農家へお手伝いに行き学びます。また、定期的に現場での栽培研修会も行います。栽培した野菜は、実際に直売所へ出荷します。

①農村集落での暮らし

集落の一員として、会合、共同作業、行事に参加します。
田舎で農業をするには、まず地域の皆さんといい人間関係を作ることが大事です。

地域との関係づくり＋Xづくり

②自営農業の実践

自ら田畑を持ち、1年間米づくり・野菜づくりに取り組みます。最初から最後まで自分で責任を持って作物を育て出荷する経験は、援農的なお手伝いや、アルバイトでは体験できません。

農業を学ぶ実践

③農家のお手伝い・現場研修

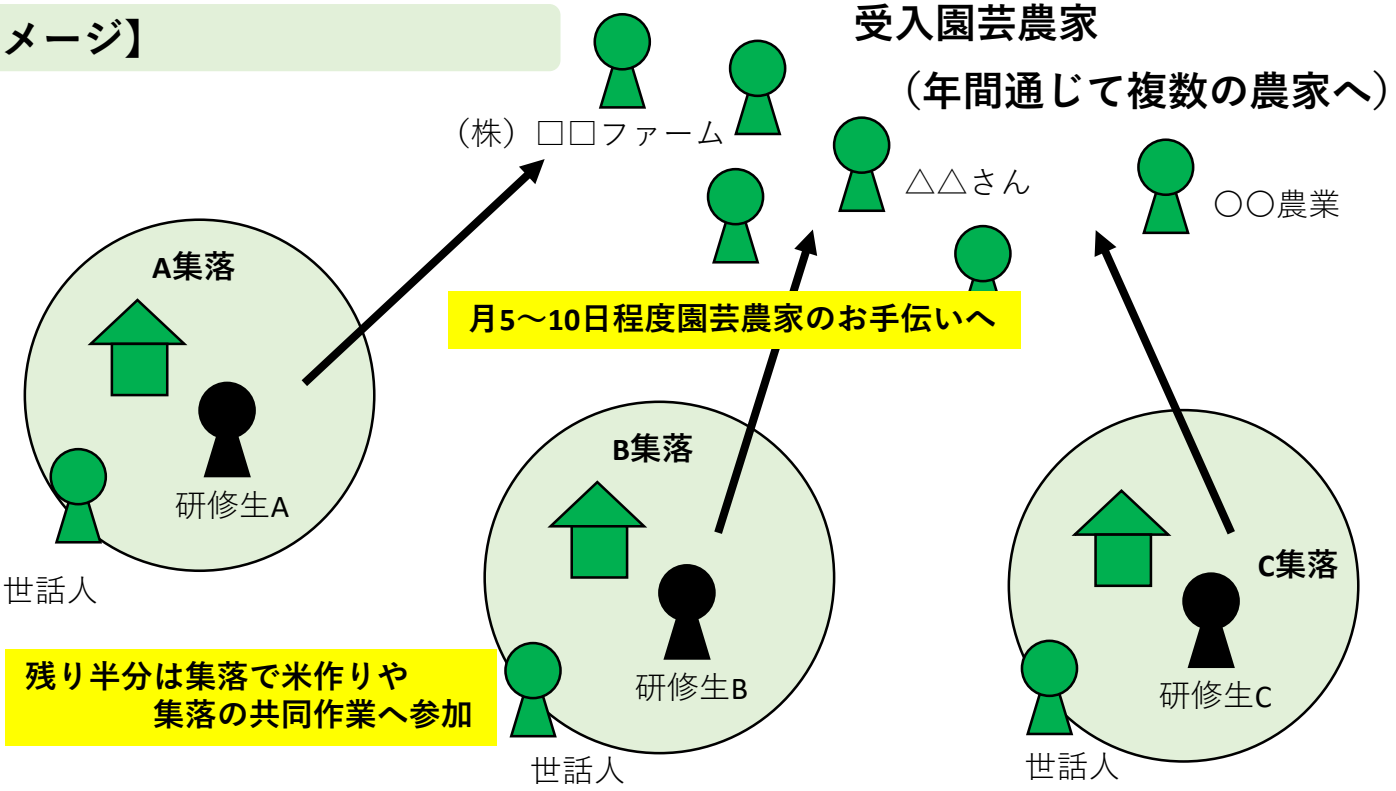
市内の複数の農家さんの繁忙期お手伝いをしながら実際の現場の技術や、農業で生きていくための考え方等を学びます。
また現場での栽培研修も行います。

農業を学ぶ＋人脈づくり

【対象】

新規就農を考えている、就農に興味はあるが、そもそも自分が農業に向いているのかわからない、本当にやれるのか不安を抱える人（「**農業次世代人材投資資金**」**を受ける前段階の人材**）など（20～30歳代）

【活動イメージ】



3．ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

数ある農業研修、農業求人のプログラムとはここが違う！

多くの農業研修、農業求人プログラムよりも
地域の暮らしに根差した暮らしを送りながら、自分で作物栽培を最初から最後まで実践できます。
また研修終了後の進路も多様に選ぶことができます。

自分にあった農業との関わりを選べます

　―農業次世代人材投資資金などの制度資金を活用しないため、仮に就農しなくても費用を返していただく必要はありません。
　1年かけて専業農家だけではなく、色々な可能性を考えてみてください。

**お手伝いだけではない
自分で田畑を持ち実践できます**

援農ボランティアやアルバイトだと繁忙期だけなど一部の作業しか体験することができません。自ら田畑を持ち、最初から最後まで自分の手で作物と作り収穫する体験がここならできます。

**農作業だけじゃない！
農村集落の暮らしを楽しめます**

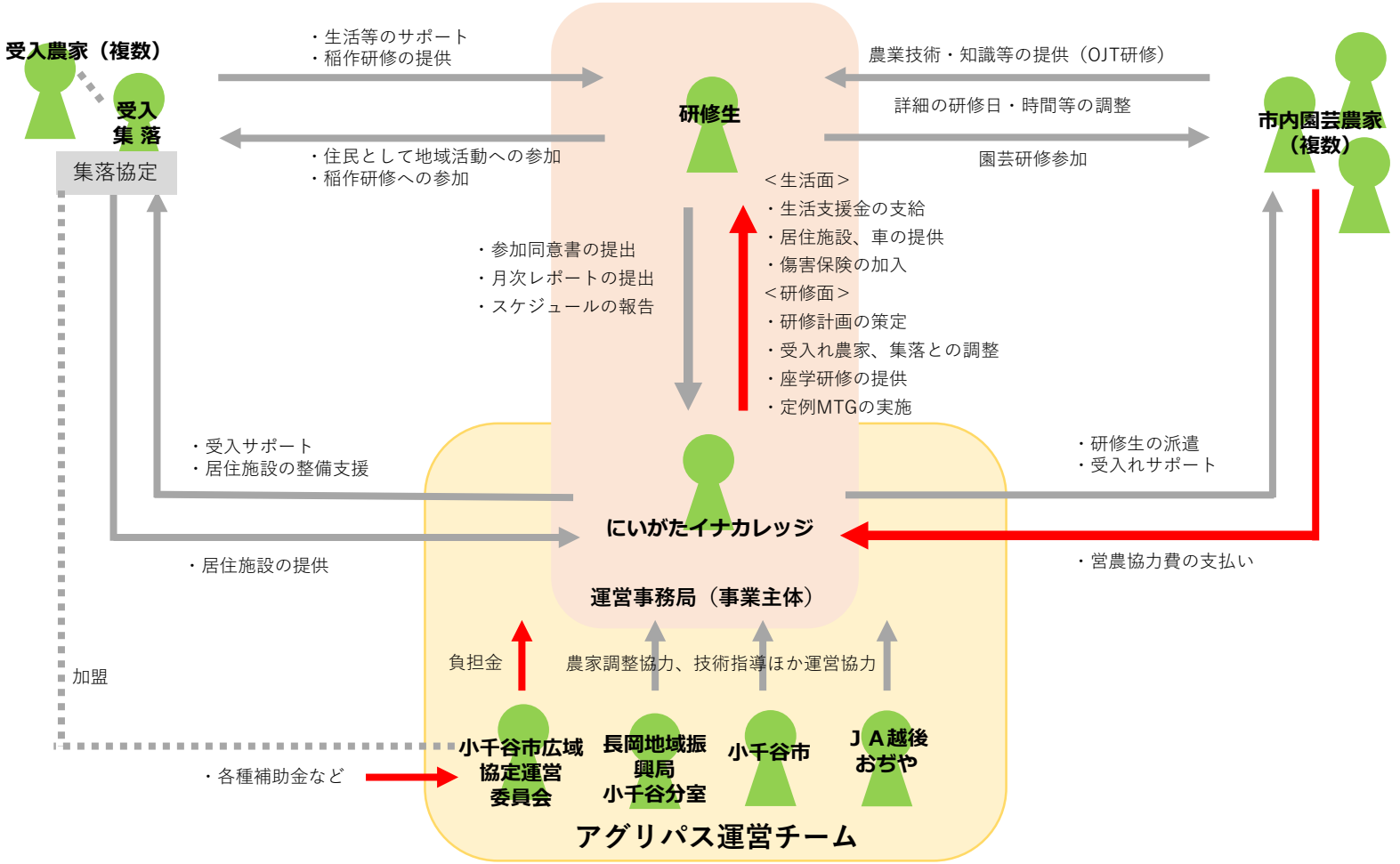
中山間地域の農村集落の空き家に滞在します。農業だけではなく、地域の人付き合いや共同作業・地域行事等を体験することも重視しています。

3．ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

受入集落・農家との仲介機能により、研修・人間関係づくりをサポートする

イナカレッジが事務局・コーディネート機能を持ち、JA越後おぢやと連携し受入れ農家とのコーディネート、また受入れ集落との間でのコーディネートを行う。



3．ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
【自身の田畑の管理】									
野菜 お米	栽培カレンダーに沿って、米、ナス、トマト、カリフラワー等の栽培								
【農家さんのお手伝い・現場実習】									
野菜	【農家A】 メロンのトンネル設置 (3日/24H)	【農家A】 メロンの管理 (2日/8H)	【農家C】 ナス、ネギ等の管理 (13日/98H) 【農家A】 メロン管理 (2日/11H)	【農家C】 ナス、ネギ等の管理 (4日/26H) 【農家A】 メロン収穫 (6日/35H)	【農家A】 メロン収穫 (5日/19H) 【農家D】 トマト収穫 (12日/69H)	なし	【農家E】 カリフラワー収穫・出荷準備 (15日/60H)	【農家E】 カリフラワー収穫・出荷準備 (15日/60H)	【農家F】 にんじん収穫など (10日/40H)
お米	【法人B】 育苗作業 肥料撒き (9日/95H)	【法人B】 田植え (12日/96H)	【法人B】 除草・溝切 (6日/48H)	【法人B】 除草ほか (3日/24H)	【法人B】 肥料撒き等 (4日/32H)	【法人B】 稲刈り (24日/192H)	【法人B】 稲刈り、出荷作業等 (8日/64H)	【法人B】 精米など (3日/24H)	【法人B】 精米など (4日/32H)
【集落の暮らし】									
集落	春の道普請		草刈り	風祭	盆踊り 秋まつり 草刈り		収穫祭	秋の道普請	冬支度

【農家さんのお手伝い・現場実習】
農家A（メロン・カリフラワー農家）、法人B（集落の営農法人）、農家C（野菜多品種農家）、　農家D（トマト農家）、農家E（カリフラワー農家）、農家F（野菜多品種農家）

1年目参加者の進路

S氏
A専業？

専業農家志望し、東京に戻り再就職
→将来的に専業農家になりたいという夢を確認できた。
→必要な勉強・経験を積むために再就職の道を選んだ。

K氏
C個人事業＋農バイト？

近隣集落へ移住
→研修期間途中に、農業をやらないことを決めた。
→インターネット関連の個人事業をしながら田舎暮らしを継続。
→研修期間中に出会った同年代の友人がいる集落へ移住。

H氏
C個人事業？＋農バイト

近隣集落へ移住
→元々様々な地域で農業をしながら点々と暮らしていた。
→もっと山奥に住みたいという意向で県内別地域へ移住。
農業バイト、自給自足的な暮らし。

M氏

元の職業に戻った
→人生でいつか農業をやってみたいと参加。
→家庭の事情で研修期間中に帰郷。現在元職に復帰。

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

進路展開イメージ　進路サポート

A専業

農業を仕事にしたい → 交付金受け農業研修をする → 交付金もらえる期間に技術と資源を得る

↑交付金を受ける準備サポート

法人での就農

↑求人情報等の提供

B兼業

農バイト等しながらやれる範囲でスタート → 数年かけてスタイルを作っていく

↑当面の生活基盤・生産基盤準備サポート

C個人事業＋農バイト

この地域でやりたい事業がある → 農バイト等しながらやれる範囲でスタート → 数年かけてスタイルを作っていく

↑当面の生活基盤準備サポート、バイト紹介等

D別仕事＋農くらし

とにかくここに残りたい → 農業バイト等しながら生活する、就職する → 数年かけて何を生業にしていくのかを検討する

↑当面の生活基盤準備サポート、バイト紹介等

3．ライフスタイル型就農プログラム「アグリパス」 まとめ

Iターン留学 にいがたイナカレッジ

・**農業技術・経営を学ぶ場以外とない問題**（農家と研修生のギャップ）
→地域に適当な研修先農家・法人がない（？）
　農業指導できる人が意外といない（超基本的なところから伴走できる）。
→専業農家と半農半Ｘ（志望者？）の意識ギャップが大きい。

・**自分のスタイルを築くまでの過ごし方問題**（研修生の農業・田舎暮らしギャップ）
→バイト生活を継続できる人は多くはない（？）
→地域おこし協力隊で、その運用の仕方次第で対応できる？
→研修生の農業に対する認識のギャップが大きい。（農業への姿勢が・・・）
→そもそもＸを収入源にまで育てられるのか？

・**「仕事づくり」と「地域との関係」両立できるのか問題**（地域と研修生のギャップ）
→地域の人たちは田んぼ継いで欲しい（農業やってほしい）願望
　が結局一番強い。他のことをやることへの理解があやしい。
→研修生、地域の思いはズレているところからスタートしている前提
　でそれをどう合わせていけるか。

農村で多業的な働き方は広がるのか？

どんなサポートができるのか？

・結局は金。心豊かな貧乏は多くの場合継続しない。

・どんな形であれ個人事業主としてやれるだけの能力が必要。

・誰でもができるできる働き方ではない。

・農業を学ぶ場づくりはまだまだまだ改善の余地がある。

・（土木以外の）他産業との連携での所得確保はやったみたい。